

皆さん新年明けましておめでとうございます。

令和5年の仕事始め式に当たり一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、神田全記副議長、並びに議員各位におかれましては、新年早々のお忙しい中にも拘わりませずご臨席をいただき、職員に対しご激励を賜わりますこと誠に有り難く厚く御礼を申し上げます。

どうか本年も引き続きご指導を賜わりますようお願い申し上げます。

改めて職員の皆さん方には、それぞれに新春の幕開けを新たな決意をもってお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

昨年末から感染数が増えていた新型コロナウイルスの第八波の懸念もあって、緊張感をもちながらのお正月を迎えた訳ですが、特段重症者の報告は市内では聞き及んでおらず、ひとまず胸をなでおろしながら穏やかな雰囲気でも過ごすことができたものと思います。

また年頭の主な公式行事である成人式につきましては、成人年齢が18歳に引き下げられたことから、本年より新たに「二十歳のつどい」として式典を開催することができました。人生の節目をお迎えになられた若い皆さんへの祝意とともに、今後ますますのご活躍を期待申し上げます。

さて、私は昨年末の仕事納め式の市長訓示の中で、2022年が節目の年として数多くの実績を収めた事業内容をそれぞれ紹介しました。それらは、今後も平戸市発展の原動力となる基盤であり、新年度から始まる平戸市総合計画後期計画の具体的実践のステージでもあります。そのステージに立つ私たちが、ともに共有し掲げていくためのテーマをこれから申し上げます。

そのテーマは『異端・先端・最西端』です。

まず「異端」についてですが、この意味するところは、自らが「異端児」になる勇気を持つということ。誰しもが、みんなの輪の中で、仲良く、波風立てぬように穏やかに過ごしたい気持ちは分かります。ただ、不確実性の高い現代社会にあって、そのような悠長な心構えでは、時代の流れに取り残され、組織全体として埋没し淘汰されてしまいかねません。「自分はこう考える」「自分ならこうやってみる」というチャレンジ精神を常に抱き、実践してみる「異端児」としての勇気を持ってください。

そしてもう一つの意味がありまして、それは「異端を受け入れる」ということです。

平戸市は、日本で初めて海外貿易を成し遂げた歴史ある港町です。その当時の藩主や平戸の商売人は、中国人、ポルトガル人やオランダ人、イギリス人などと交易を重ねることによって、それまで見たことのない価値やモノを受け入れ、経済や文化を発展させてきました。このことは実に 400 年以上も前のことですが、そのような環境に対応できる教育制度や翻訳機能が準備されていたとは思えず、当時の平戸の人々がいかに挑戦的かつ開明的であったかを思い知らされます。さらに現実を目を向けると地域の人口減少は著しく、もはや市内に生まれて育った人材だけでは、地元の生活基盤や産業構造を維持することが難しくなっています。そうであるならば、外からの協力者の来訪を拒む理由はありません。進んで、「異端」と呼ばれても新しい知恵や人材を受け入れ、先人に負けないようなネットワークを築いていきたいと思えます。

次に「先端」ですが、これは日進月歩で進化していく様々な技術を積極的に受け入れるということです。すでに自治体DXの取り組みは進みつつありますが、これからのAI技術をはじめとする情報革新は、否応なく私たちの生活環境や産業現場に必要なツールになります。それらの導入に向けては、慎重かつ丁寧であることは言うまでもありませんが、決定した際には思い切ってこれらに向き合い、どこよりも誰よりも早く身に付け、活用していく心構えと体制づくりが必要です。

そしてもう一つ「先端」には、「自らの感性を研ぎ澄ませ！」つまり「とんがれ！」という意味も込めています。先が見えない不確実性の暗闇の中であっても、自らの情熱と感性で、その先を照らし、突き進む勇気が必要です。「誰かの後をついて行く」のではなく、自分から進んでスタートダッシュを試みてください。「失敗を恐れない」また「失敗したことを責めない」という職場環境づくりに励んでいただきたいと思えます。

最後の「最西端」ですが、これは平戸の地理的位置を表しています。

なぜ改めて、この言葉を用いたかという、時折私たちはできない理由に「日本の端っこ」に居ることで諦めていませんか。最西端だからということできない言い訳にいませんか。

もちろん観光などの人の移動、物流などのモノの輸送において、本土の端っこであることはハンディとなっています。しかし、都会の真ん中で仮に何かを成し遂げて、それはチャンスに恵まれているから当然のことであって、そこにドラマは生まれないのではないでしょ

うか。

あえて日本の最西端という地理的地勢的に不利な条件下で、何を成し遂げるかということが尊いことであると確信します。昨年末の仕事納めの訓示で申しましたように、すでに複数の企業が、平戸市のポテンシャルを評価し、この不利不便な地域で新しい取り組みを始めようとしています。これらが、芽を出し、実を結べば、最西端という価値がさらに光を放ち、多くの視察を受け入れ、人が集まり更なる研究機会が生まれます。そこに大いなる価値を見出し、力を結集して全国に、そして世界に発信しようではありませんか。

今年は年頭にあたり、この「異端・先端・最西端」をテーマとして胸に刻みながら、あらゆる業務を積極果敢に進めていきたいと思いますが、それには多くの仲間が必要です。当然、市役所内の先輩や同僚はもちろんのこと、外部の有識者、経験豊富な民間事業者などあらゆる部門の専門家や技術者との連携を受け入れていかなければなりません。そのために必要な好奇心、探求心、理解力、包容力など、私たちの先人に負けないような努力を重ねていく覚悟を、新年の幕開けに改めて誓い合いたいと思います。

結びになりますが、本年が平戸市民の皆様にとって、素晴らしい年になりますことと、議長はじめ議員各位の益々のご健勝、併せて職員各位の更なるご奮闘を期待申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

終わります。